

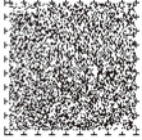
JOURNAL

2021 vol.69



11月5日に行った、市庁舎を使用したライトアップの様子。
11月は「児童虐待防止推進月間」、11月12日から11月25日は
「女性に対する暴力をなくす運動の実施期間」です。

(特集) 女性の動き方応援 (起業・就職応援セミナー)



男女共同参画週間記念講演会



男女共同参画週間を記念して、6月27日に講演会を開催しました。
今年には男女平等推進センター開館20周年ということもあり、過去に久留米市男女平等政策審議会委員、久留米市男女平等推進センター運営委員を歴任されるなど、ゆかりのある講師をお招きしました。
関西大学文学部教授の多賀太さんから、「男性が変われば社会が変わる ～ ジェンダー平等の実現を目指して ～」というテーマで講演いただきました。

●男性稼ぎ手社会は男性も疲弊させる

このレポートは、講演の一部を要約したものです。

共働き世帯は増加しているが、依然多くの世帯では夫が稼ぎ主である。「両立」については、過重な長時間労働など従前の稼ぎ主男性中心の労働慣行では無理がある。男性自身も葛藤や悩みを抱えており、男性の育児参加促進のためには、労働慣行の見直しが不可欠である。

また、男性の健康や生活の質の問題についても、従来の固定的な「男らしさ」の問い直しと解放（ジェンダー平等）が解決の鍵である。

●ジェンダー平等を実現するために

多様性（家族の多様性、性の多様性（SOGI）など）を前提とし、尊重される社会へ。

社会レベルでは、働き方改革（同一価値労働同一賃金）やケア（家事・育児・介護）の担い手の分散など。

教育における取り組みとしては、人権尊重と非暴力を基礎としたジェンダー平等教育、学校の中をジェンダー平等に、さらにジェンダー平等社会の担い手を育てる教育など。

地域での取り組みとしては、女性が地域の意思決定に参加することの大切さ、男性も平日の昼間に堂々と子育て・地域参加ができる社会など。

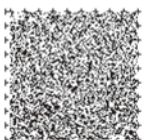
ジェンダー平等社会とは、性別にかかわらず、仕事・地域・家庭生活の責任とその喜びを分かち合い、安心安全に、健康で、生き生きと暮らせる社会であり、そうして地域が持続可能な発展を遂げていく社会。

その実現を自分事ととらえ、皆がその積極的な担い手に！

参加者の声

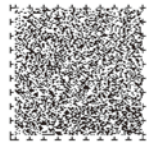


- ・あらためて、男性、女性どちらがいい、悪いではなく、だれもが生きやすい社会づくりをしていきたいと思った。
- ・日本の男女格差解消が立ち遅れたのはなぜかと思っていたが、高度経済成長からの経済施策や労働政策の立ち遅れが招いたものだと説明され、よく分かった。



男女共同参画週間とは？

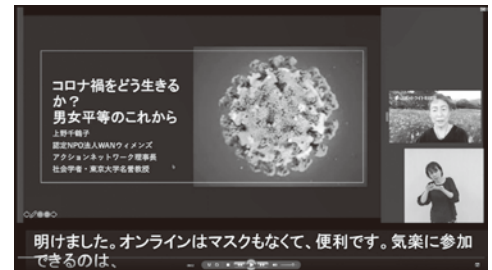
「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、様々な取組を通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。



久留米市では、昭和63年10月1日に市民と行政の指針である「久留米女性憲章」を制定しました。その翌年、憲章制定日である10月1日からの1週間を「久留米女性週間」と定め、その記念事業として「くるめフォーラム」を毎年実施しています。

今回のフォーラムは、緊急事態宣言の延長に伴い、会場での実施はやむなく中止とし、記念講演の録画配信のみとなりました（現在は公開期間終了）。

社会学者の上野千鶴子さんから、「新型コロナウイルス感染症拡大とジェンダー」をテーマに講演いただきました。



●新型コロナウイルス感染拡大により顕在化してきたもの

このレポートは、講演の一部を要約したものです。

非常時には平時の矛盾が拡大・増幅してあらわれる。しわ寄せが子どもや女性という弱い人に出ている。コロナ不況は女性不況とも言われる。具体的には、卸売・宿泊・飲食など対面で接客等を行う、オンライン化できない業種（エッセンシャルワーカー）に女性が多く、雇用の減少によるしわ寄せが出ている。

また、深刻化する母子世帯約1800人の実態をまとめたNPO法人の調査によると、7割強が雇用・収入の影響があったと回答、子どもの一斉休校により仕事を休まざるを得ない状況になったことが要因なのは明らか。統計データも重要だが、自由回答にも目を向けると、子どもは1日2食、自分（母親）は2日に1食にしたので体重が激減したなど飢餓難民のような貧困が現に日本でもあることが分かる。

●格差社会は人災、政治が作り出したと言っても過言ではない

現政権下で雇用拡大されたのは、正規ではなく、非正規労働者の雇用増により全体の労働者数が増えたに過ぎない。男性の2割、女性の6割が非正規。非正規の方はフルタイムで働いても年収200万円以下が多く、同一労働でも賃金差がある状況。

また、日本は欧米を抜き、10人に7人の女性が働いている。夫の年収が横ばいであり、家計を維持するためには、共働き（妻の収入）が必須な状況と言える。

1985年男女雇用機会均等法と同時に施行された労働者派遣法。これにより規制緩和が進められ、派遣対象業種の拡大が行われた。この年は、「女性の分断」、「女性の貧困」、「女女格差」元年とも言われている。

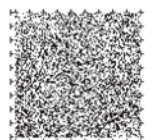
格差社会は人災。若者、低学歴、単身、女性、シングルマザーの貧困は予見可能だったという書籍もある。

●超高齢社会を生きる道を作るため、女性のリーダーが増えて欲しい

日本の女性の地位は、諸外国に比べ改善スピードが遅く、そのことはジェンダーギャップ指数でも明らかであり、特に政治分野が劣っている。フランスのパリテ法のように、強制力のあるクォーター制抜きで男女平等を達成した社会はほとんどない。また、女性議員が増えない理由は、立候補者が増えないからであり、立候補に対して家庭内に抵抗勢力（夫や親族）があり、女性自身が男性の前に出るのを嫌がる傾向もある。

最新の学術研究では、女性リーダーのほうが新型コロナウイルス対策に成功したとも言われている。死亡率低さトップ10のうち4つが女性元首。リーダーに占める女性の割合からすると統計的に高パフォーマンス。

超高齢化の生きる道。安心して弱者になれる、要介護になれる、認知症になれる、障害をもっても殺されない社会を。そのために、女性に政治の世界に進出し、リーダーになってもらいたい。



特集

女性の働き方 応援

男女の自立と 男女共同参画社会の 実現を目指して

男女平等推進センターでは
男女共同参画社会の実現を目指し
様々な講座、セミナーを開催しています。
今号ではそのうち、女性の「就職」・「起業」
を目的とした働き方に関連した2つのセミナー
をご紹介します。

女性の 起業 応援



女性の起業応援セミナー

-夢をカタチに-

起業応援セミナーは「起業したいけれど、どうやってビジネスを立ち上げていいかわからない…」

そんなあなたの「夢をカタチにする」起業の考え方、ステップや手法を学ぶセミナー。全5回の講義になっており、「起業とは」といった基礎的な知識から始まり、最後には創業計画書を作り上げることを目標としています。

実際に何人も女性起業家をセミナーから輩出しており、毎年定員以上の参加申込があります。次に夢をカタチにするのはあなたかも。

今年度のプログラム例（7月実施）

- ・ 起業とは、起業の心得、強みを生かす
- ・ 起業に必要なお金の話
- ・ ビジネスモデルの作り方
- ・ ビジネスプランとは
- ・ 原価計算、価格設定について
- ・ 世の中のことを知る、お客様を知る

講義は
中小企業診断士等の
専門家が実施！

協力/久留米商工会議所・日本政策金融公庫

毎年多くの
参加者！
同じ夢を持つ
仲間との
繋がりも！

1年間の
継続支援！

ここに
注目！

起業応援セミナーでは最終日に受講者同士のグループ、ネットワーク形成を推奨。
セミナー内で形成されたグループにはなんと1年間センターの会議室を無料で貸し出します。
更には起業に役立つ情報も随時共有。必ず夢に近づけます。

セミナーの中で、実際に事業計画等を考えることで起業への思いが非常に強くなりました。
趣味を仕事にすることができ、お客様からお礼の言葉をもらった時が一番嬉しいです。失敗を恐れず、体験することが大事だと思います。失敗も経験値。まずは一歩踏み出してみませんか。

卒業生
(リラクゼーション
業を起業)
の声



ここに
注目！

セミナー受講が
求職活動
実績に！

就職応援セミナーの受講は求職活動実績になります。
就職活動中や転職活動中の方はもちろん、求職中で雇用保険受給中の方はぜひとも次回を受講をご検討ください。

女性の就職応援セミナー

-就職、再就職を目指して-

就職応援セミナーは「これから働く女性」、「転職を考えている女性」を対象とした全2回のセミナー。

自己分析の方法や履歴書、職務経歴書等の書き方を一から学ぶことができます。また働く上での環境、労働法関係の講義もあり、転職を目指す方にも人気のセミナーです。最後には講師による模擬面接、指導もあり、参加者の満足度も非常に高いセミナーとなっています。

今年度のプログラム例
（10月実施）

- ・ 自分の強みを知る
- ・ 働く上での法律・制度
- ・ 履歴書、職務経歴書の書き方
- ・ 模擬面接

共催/筑後労働者支援事務所
ハローワーク久留米

配布テキストは
持ち帰り可能！
今後の学習に
いかせます。

女性の 就職 応援

事業紹介

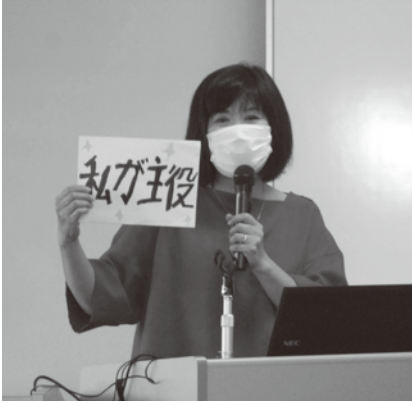
子育て世代と男女共同参画講座（育児ママ講座）

わたしの人生 私が主役

～子育ても仕事も「私も」大切にするために～

10月5日

子育てアドバイザーの中山淳子さんを講師にお招きして、自分らしくイキイキと生きることを考えるセミナーを開催しました。



講師 中山 淳子さん

子育てアドバイザー、
ママの輝く明日を応援する
Doman i 代表

やりたかったことに『ふた』をすることを「未完了の思い」といいます。自分の世界を広げるためには「イメージ」「スピード」「一歩踏み出す」がポイントで、自分はどんなことをしている時間が好きかを考え、それを実現に近づけるためには「自分の時間を予約」すること。イメージを叶えやすくするにはリラックスして『できる』を前提に考え、イメージトレーニングをすることなどお話しいただきました。

参加者からは「以心伝心ではなく発信も大切。日本人の美德”言わなくてもわかるよね”ではダメで、きちんと伝えていこうと思った」、「ムリではなく『できる』を前提に今日から前向きにすごしていきます」、「私にも未完了の思いがあったことを思い出せて良かったです。自分のための時間を作っていこうと思いました」、「わたしの人生 私が主役！動いてみる。参加して良かった」などの感想が寄せられました。

ジェンダーに囚われない生き方、それが「わたしの人生、私が主役！」。自分自身に向き合い、一歩踏み出すきっかけづくりができました。

男女共同参画基礎講座（男性の生き方支援講座）

ライフもワークも大切にする男の生き方

10月30日

「男性は外で稼いでくる」「仕事が第一」という価値観に縛られ、悩むことはありませんか。

元祖イクボスとしてNHK「クローズアップ現代」で特集され、アエラ「日本を突破する100人」に選出された川島さんから、仕事も生活もエンジョイする生き方についてお話しいただきました。



講師 川島 高之さん

(NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、
株式会社K & Partners代表取締役社長)

○仕事も私生活も、満喫しよう！「人生100年、Hybridのススメ」
Life（私ごと）、Work（しごと）、Social（社会ごと）、全ては「今が旬」であり、どれも「先送り」できない。出世とは世に出ることであり、世とは上記3か所のこと。

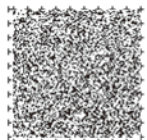
○仕事の生産性を高めよう！「働き方改革は自責でやるもの」

普通にワーク・ライフ・バランスを進めていくと、ぶら下がりの型や権利主張型の部下になってしまうかも。あるいは、レギュラーから外され、補欠に回されるかも。そうならないため、ワーク・ライフ・バランスとは、私生活時間の死守&仕事の信頼を失わないこと。だから、「緩い」のではなく「厳しいもの」という意識付け＝覚悟が必要。

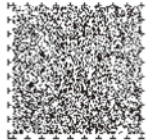
参加者の声
(アンケートより)



- ・自分の「生活」と「仕事」を考える上でとても参考になった。
- ・改めて、自分を見つめ直す機会となった。



第4次久留米市男女共同参画行動計画の始動



久留米市では男女共同参画社会の実現に向けて、平成13年度に「男女共同参画行動計画」を策定して以降、この計画に基づき、様々な取組を進めてきました。令和3年4月より、現在の社会情勢を踏まえ「第4次久留米市男女共同参画行動計画」及び「第3次久留米市DV対策基本計画」（以下、「第4次行動計画」という。）がスタートしました。

●女性の生きづらさの顕在化

新型コロナウイルス感染症の拡大は、女性の生活に大きな影響を与えています。女性は非正規での就業割合が高く、ひとり親家庭や子育て中の女性から解雇・雇止めされるなど、しわ寄せが及んでいます。また、生活の不安やストレスから、DVや女性の自殺者の増加などの問題が深刻化しています。

●DVのない社会の実現を目指して

第4次行動計画に「第3次久留米市DV対策基本計画」を位置付け、取組を進めています。市では「女性に対する暴力をなくす運動」期間にオレンジ&パールツリーを設置し、DV防止の啓発と相談窓口の周知を行っています。DVや性暴力等は、重大な人権侵害であり決して許されるものではありません。DVや性暴力等の暴力防止の意識啓発と関係機関との連携強化による支援体制の充実を図っています。

●男女共同参画社会の実現に向けて

市民の男女平等の意識は高いものの身近な生活の場における男女の不平等感は解消されていないことがわかっています。性別に関わらず個性や能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、第4次行動計画では具体的な目標と施策を定め88の事業に取り組んでいます。男女平等に向けた市民一人ひとりの主体的な行動につながるよう全庁でしっかり取り組んでまいります。

第4次久留米市男女共同参画行動計画の内容

目 標 男女の自立と男女共同参画社会の実現	
↓	
施策の方向Ⅰ	人権尊重のための男女平等の意識づくり
施策の方向Ⅱ	あらゆる分野における女性の活躍の推進
施策の方向Ⅲ	女性に対するあらゆる暴力の根絶 (施策1) 第3次久留米市DV対策基本計画
施策の方向Ⅳ	男女が自立し、生活できる社会づくり
計画推進体制の整備	

【問合せ】男女平等政策課

電話：0942-30-9044 FAX：0942-30-9703



女性に対する
暴力根絶のための
シンボルマーク

パープルリボンキャンペーン

夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為など、女性に対する暴力は世界中に広く見られる犯罪であり、女性の人権を著しく侵害するものです。また、男女共同参画社会を実現していく上で、克服すべき重要な課題でもあります。

国では、毎年11月12日から11月25日（女性に対する暴力撤廃国際日）までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間と定め、全国各地でさまざまな事業が展開されています。男女平等推進センターでも「パープルリボンキャンペーン」として様々な事業を実施しました。

・ 女性のための護身術2021 11月20日（土）

性暴力から自分を守るための護身術を学びました。

・ 子どもに伝える体と性のはなし～ 自分も相手も大切に～ 11月20日（土）

子どもの体と性について、子どもにどう伝えるかを学びました。

【講師】橋本 明子さん（リアライズYOKOHAMA代表）【企画】NO!SHくるめ

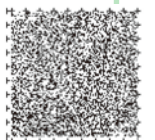
・ 講演会 命の問題(虐待・いじめ・非行)から子どもを守る多機関連携 11月21日（日）

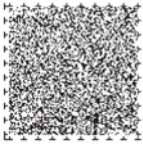
問題行動を起こすといわれている子どもたちがどのような状況にあるのか、また、性暴力被害の現状などについて一緒に考えました。

【講師】安永 智美さん

（福岡県警察本部生活安全部少年課少年健全育成室課長補佐・少年サポートセンター警察庁指定広域技能指導官）

そのほか、上映会「デザート・フラワー」（ドイツ・オーストリア・フランス 2009年）やパープルリボンでツリーを作ろう！（市民グループ公募企画：S・ぱ～ぶるリボン）と題し、期間中にえーるピア久留米のエントランスで、シンボルマークであるパープルリボンでツリーを作りました。





相談室だより

令和3年10月、兵庫県尼崎市で元夫が元妻を、そして、宮崎県高千穂町では、夫が暴力を受け避難していた妻の父親と祖父を刃物で刺殺するという悲惨な事件が続いて起こりました。

●DVの深刻化の懸念

DVは、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。DVは、外部からその発見が困難な家庭内において多く行われるため、潜在化しやすく、しかも加害者に罪の意識が低いという傾向にあります。そのため、周囲も気づかないうちに暴力がエスカレートし、被害が深刻化しやすいという特性があります。

●あとを絶ため悲惨な事件

DVは、被害者が引き起こしている問題ではなく、加害者が持つ「相手を自分の思い通りに支配しても許される」という間違った考えによって起きています。

妻は、暴力を振るう夫から身を守るために避難しても、夫に見つかり暴力が再燃するのではないかという恐怖心を抱えながら生活せざるを得ません。一方で夫は、妻の居場所を突きとめようと嫌がらせや脅迫するようなメールを送ったり、妻の親族の身辺につきまとうこともあります。

夫が自分の思い通りにならなかったことを逆恨みして、その怒りを憎しみに変え、相手やその親族に対して命を脅かす身勝手な行動に走り、悲惨な事件を起こすという結果になります。

このような悲しい事件が起きないためにも若年層へのデートDV防止や「命を大切に」「加害者や被害者にならない」等の教育と啓発の充実を図ることが重要です。

●相談をしてみませんか

DVの被害者の中には、複雑な思いから、なかなか相談できずにいる人もいます。DVで不安を感じたら、一人で悩まず、相談窓口にご相談をしてみませんか。相談してみると、一人では気づかなかった解決方法が見つかるかもしれません。相談室では、あなたに寄り添い、きめ細かに支援します。また、周りで被害に遭っている人がいたら、ぜひ相談室をご案内ください。

相談室の電話 0942-30-7802

図書情報ステーション

10月9日



ヒロインは気立てが良くて控えめで？



～おとぎ話と絵本で学ぶジェンダー～



講師 谷口秀子さん
(九州大学 言語文化研究院教授)

物語を読んで、クスッと笑えるのはなぜでしょうか？というところから講座は始まりました。シュレックに登場するお姫様、シンデレラ王子に登場する王子様から考えていきました。私たちの中にある固定観念が覆された時に、クスッと笑ってしまいました。

以前、おとぎ話から考えるシンデレラコンプレックス（自立に戸惑う女性の告白）が話題になりました。待っていたら王子様がきて助けてくれる。男性が頑張っているからいいや。と思ってしまうお話は、読み手にジェンダーを刷り込んでしまいます。

おとぎ話や絵本などをジェンダーの視点で改めてとらえ直すことで、身近にある性差別やジェンダーへの気づきが多く、作品を読み解く力を養うきっかけとなる講座でした。

講座関連本



シンデレラ王子の物語



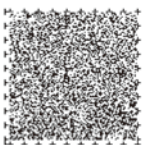
シンデレラ・コンプレックス



アリーテ姫の冒険



シンデレラとガラスの天井



参加者の声

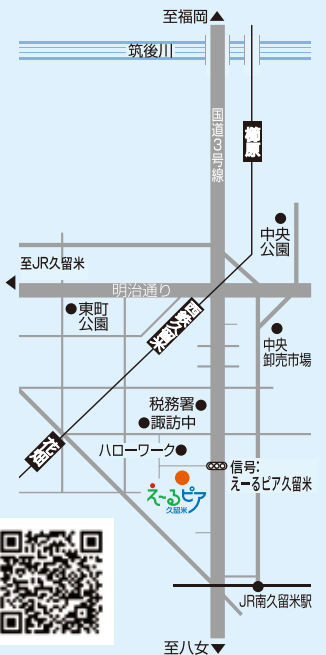


- ・テーマに沿ったわかりやすいお話でした。
- ・自分も性別により決め付けているところがあると気づきました。
- ・読書ボランティアをしています。刷り込みのない活動を続けなくてはいけないと思いました。

●編集・発行●
令和3年12月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037
久留米市諏訪野町1830-8
えーるピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>
E-mail. danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。